

祝 辞

日本気象学会北海道支部創設30周年に当り

日本気象学会理事長 山 元 龍三郎

昭和32年5月に、日本気象学会の北海道支部が、東北支部と共に創設されました。既存の関西・九州支部と併せて日本気象学会の支部の体制がほぼ出来上がり、それまで主に東京付近に限られていた学会活動が全国的な拡がりで行われるようになりました。創設当時の北海道支部の会員数は百数十名でありましたが、現在約二百五十名に達し、その盛会ぶりが如実に示されております。これは、初代の中谷宇吉郎支部長を始めとして、歴代の支部長や理事諸兄及び支部会員諸氏の御尽力の賜物と存じ、敬意を表します。



我々人間の生存の空間である大気を対象とする気象学は、大気の物理・化学の研究のみならず、大気現象の予測や人間活動との関わり合いをも包含するものであり、また、初等中等教育にも大切な位置を占めております。事実、気象学会は、気象の研究や観測・予報技術を本職とする気象庁・研究機関・大学・気象協会等に所属する会員のみならず、小中学校・高校の教員や気象に関係のある産業・交通・情報の分野で活躍している会員の集まりであります。学術研究や技術開発の成果の発表・討論は毎年2回開かれる春と秋の全国大会等において全国規模で行われ、大きい成果を得ております。産業・交通・情報等の分野と気象学との関わり合いについても、全国規模で成果の発表・討論の場がありますが、この問題は地域的な特徴が著しいので、支部活動に期待する所が大きいのであります。

北海道支部は他の支部に比べて特に会員数が多いわけではありませんが、その活発な支部活動は注目に値するものであります。北海道支部では、毎年2回の研究発表会を盛大に開いて研究・技術開発を推進すると共に、地方講演会を開催して一般市民への新しい気象知識の解説に努力され、さらに、東京・大阪と共に夏季大学の講座を開いて正しい気象知識の普及に寄与されております。特に、毎年100頁に近い支部だよりを刊行されて支部会員の間連絡に務めておられる事は、誠に意義の深い事であり、他支部に比べてまさるとも劣らない北海道支部の活動を支えているのは支部事務局の奉仕でありまして、理事長として、事務局の皆様に謝意を表します。

北海道では、冬の所謂どか雪、春先の流水や夏の濃霧等、独特の現象が起っていて、学問的にもまた社会活動の面でも問題となっております。このような地域独特の現象の研究・調査を含めて、気象学の基礎と応用の両面において、北海道支部の会員諸氏が今迄以上に活発に活動される事を希望します。終わりに当たり、北海道支部のますますの発展を期待し、秋山支部長をはじめ理事の皆様と会員諸氏の御健康を願っています。